

SENKO

CSR REPORT

2018

環境・安全・社会への取り組み

SENKO GROUP CSR HOT NEWS

“生き生き”働ける企業を目指して健康経営を推進。
「健康経営優良法人」に認定されました

特集① ドッキング輸送の取り組み

特集② 省人化・機械化の取り組み

特集③ モーダルシフトの取り組み



Moving Global



物流を超える
世界を動かす
ビジネスを変える

ごあいさつ

人々の暮らしと産業を支える企業グループとして CSR経営を推進します

当社グループは2017年4月から持株会社体制に移行し、2021年度までの中期経営5カ年計画「センコー・イノベーション・プラン2021 (SIP21)」をスタートさせました。

SIP21では、「企業の社会的責任 (CSR) の重視」を経営方針の1つとし、「環境」、「安全」、「社会」の各活動に取り組んでまいります。

2017年度の取り組みとして、「環境活動」では、モーダルシフトを積極的に進め、環境負荷低減に努めるとともに、労働時間の短縮をはじめドライバー不足への対応を図りました。

「安全活動」では、視覚に訴える安全教育や安全関連のシステム構築などに取り組み、コンプライアンスとリスク管理体制の強化に努めました。

「社会活動」では、グループ各部門の優れた社会貢献活動を評価する社内表彰制度の新設や、囲碁の

国際棋戦に特別協賛し、伝統文化の普及を支援するなど、活動内容の多様化を図りました。

さらに、グループ全従業員が人生いつまでも元気で幸せな生活を送ってほしいと願い、2017年9月に「センコーグループ健康経営宣言」を公表し、2018年2月には「健康経営優良法人」に認定されるなど、従業員の心と体の健康増進に取り組みました。

今後も、当社グループは、人々の暮らしと産業を支える企業グループとして、ステークホルダーの皆さまに信頼されるよう、グループ一丸となってCSR経営に取り組んでまいります。

センコーグループホールディングス株式会社
代表取締役社長
CSR推進委員会委員長

福田 泰久

Contents

ごあいさつ	2
センコーグループの事業概要	3
センコーグループ 中期経営計画とCSR方針	5
SENKO GROUP CSR HOT NEWS	7
特集 ①ドッキング輸送の取り組み	9
②省人化・機械化の取り組み	11
③モーダルシフトの取り組み	13
環境報告 環境活動ダイジェスト	15
環境方針、環境目標と成果	17
環境負荷低減への取り組み	19
安全報告 安全活動ダイジェスト	21
安全方針、安全マネジメント	23
現場での安全活動	25
社会報告 社会活動ダイジェスト	27
従業員とともに、地域社会とともに	29
コーポレート・ガバナンス	31
企業データ	33

■編集方針および報告の範囲

センコーグループは、CSR推進委員会を設置し、従来から経営の重要事項と位置づけていました「環境保全」「交通安全対策」を含めたCSR活動の取り組みを2008年度から「CSR報告書」として発行しています。

編集方針は下記の通りです。

- (1) センコーグループの特徴的なCSR活動を「特集」として紹介しています。
- (2) 記載対象範囲は、センコーグループの活動です。
- (3) 記載対象期間は、2017年4月から2018年3月までの活動ですが、一部2018年4月以降のものも記載しています。
- (4) 環境の報告は、環境省の「環境報告ガイドライン (2012年版)」を参考にしています。

センコーグループの5事業

人を育て、人々の生活を支援する「未来潮流を創る企業グループ」として、
未来を動かすサービス・商品の新潮流の創造に挑戦しています。



物流事業グループ

93社

総合スーパー・ドラッグストア・ホームセンター・アパレルなどの流通業界をはじめ、住宅・建材業界、化学製品などのケミカル業界のお客様を中心に物流事業を展開しています。

また食品業界向けには、冷凍・冷蔵倉庫を保有し、輸送では保冷トラック・鉄道コンテナを利用するなど、全国規模で低温物流（冷凍・冷蔵）のネットワークを構築しています。

さらに、海外に現地法人などの事業拠点を開設し、国内外をつなぐ複合一貫輸送や海外での物流センター事業を展開しています。

【主な事業会社】

センコー(株)／(株)ランテック／東京納品代行(株)／センコーエーラインアmano(株)
アクロストランスポート(株) ほか



商事事業グループ

16社

石油販売、商事販売、貿易事業などを行っています。燃料販売、物流機器・資材など物流関連資材や日用品、包装資材、食品、酒類などを販売しています。

また、お客様の原材料や製品の輸出入、海外取引などの貿易事業も行っています。

【主な事業会社】

センコー商事(株)／アスト(株)／(株)スマイル／(株)丸藤 ほか



ライフサポート事業グループ

8社

介護、フィットネスや家事代行、引越などの生活者を支援する事業を展開しています。

【主な事業会社】

(株)けいはんなヘルパーステーション／(株)ブルーアースジャパン
(株)ビーナス／(株)センコーリビングプラザ ほか



農業事業グループ

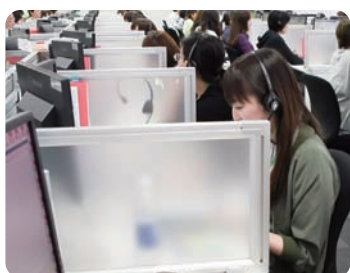
3社

〔(株)センコースクールファーム鳥取〕では、廃校を利用した福祉型農業を行っており、葉物野菜やキノコ類を栽培・販売しています。

またお茶(熊本)、トマト(宮崎)、グラパラリーフ(千葉)の栽培・販売も行っています。

【主な事業会社】

(株)センコースクールファーム鳥取／(株)センコーアグリ ほか



ビジネスサポート事業グループ

13社

お客様の多様なニーズに対応した「最適な物流システム」を実現するため、物流コンサルティング事業やITソリューションシステムの開発と運用を行う情報システム事業を展開しています。

また不動産事業や人材派遣事業、通販事業者向けのコールセンター事業なども行っています。

【主な事業会社】

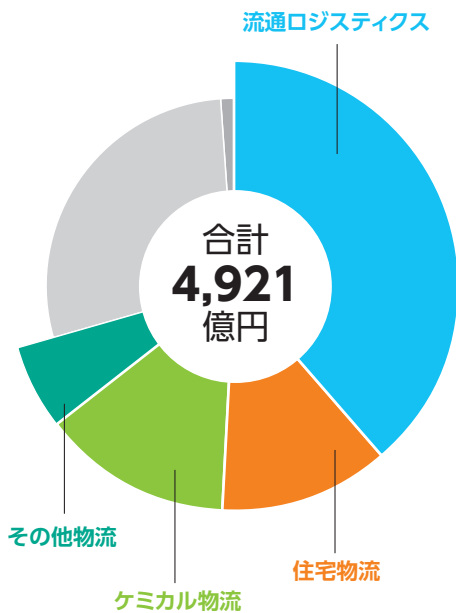
ロジ・ソリューション(株)／センコー情報システム(株)／センコー不動産(株)／S-TAFF(株)
センコービジネスサポート(株) ほか

※会社数は2018年4月末現在

売上高の構成

物流事業

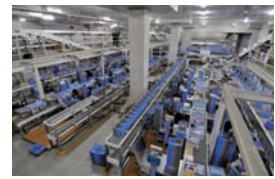
貨物自動車、鉄道利用、海上などの運送事業や、倉庫業、物流センターの運営などを行う事業です。多様化、高度化するお客様のニーズに対応した戦略的なロジスティクスシステムの開発から運営まで、一貫して行っています。



流通ロジスティクス



売上構成
38.7%
売上高 1,905億円



量販・小売、食品、ファッションなど

住宅物流



売上構成
12.2%
売上高 600億円



住宅メーカー製品や関連資材など

ケミカル物流

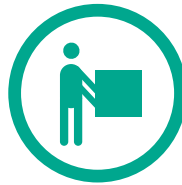


売上構成
13.8%
売上高 678億円



樹脂原料や樹脂成型品、加工品など

その他物流



売上構成
6.0%
売上高 295億円



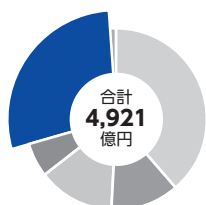
流通ロジスティクス、住宅物流、ケミカル物流以外

商事・貿易事業

商事販売、石油販売、貿易などを行う事業です。物流機器・資材、燃料の販売など物流に関する商材を販売するほか、日用品、包装資材、酒類などを卸売りしています。また、お客様の商材の輸出入などの貿易事業も行っています。



売上構成
28.3%
売上高 1,393億円

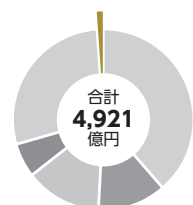


その他事業

情報処理受託、自動車修理、保険代理、太陽光発電などの事業から構成される部門で、物流事業、商事・貿易事業に含まれない事業です。



売上構成
1.0%
売上高 51億円



企業価値向上と、 豊かな未来社会の実現へ

グループ一丸となってCSR経営を推進

センコーグループの成長戦略『SIP21』

センコーグループは、2017年4月から中期経営5カ年計画「SIP21」をスタートさせました。その方針の中で「社会的責任(CSR)の重視」を掲げています。

グループ戦略の方向性

「SIP21」(センコー・イノベーション・プラン2021)は、「人々の暮らしと産業を支える企業グループ」として、新潮流の創造に挑戦し、新たな100年を切り拓いていく私たちの成長戦略です。

SIP21
Senko Innovation Plan 2021

「Moving Global」の実現

～物流を超える、世界を動かす、ビジネスを変える～

グループ一体となり、
国内外の経済・社会に
イノベーションを起こす。

グループ中期経営目標

2021年度目標

● 営業収益	7,000億円
● 営業利益	280億円
● 営業利益率	4.0%
● 自己資本利益率(ROE)	10.5%
● 自己資本比率	40.2%

グループ中期経営方針

1 事業領域の拡大

海外での事業拡大の加速、国内での既存事業の高度化、ライフサポート・ビジネスサポート事業などの新事業領域に進出する。またそのために、積極的な業務提携やM&Aも推進する。

2 ブランド価値の向上

グループ総合力を結集させ「驚きと感動を与えるサービス」を提供し、顧客満足度(CS)から顧客感動(CD)へ進化する。

3 従業員満足度(ES)の向上

幅広い人材が集まり、成長し、生きる環境へ価値を高めるため、多様な制度づくりと活発な利用を通じ、従業員満足度を向上する。

4 社会的責任(CSR)の重視

地域・各地の産業、文化、自然を守り、育て、社会とともに成長する。

5 資本市場の信頼獲得

企業グループ全体の価値の最大化を図るとともに、財務健全性を高める。

グループCSRの中期方針

当社グループをはじめ、仕入先や協力企業なども含め、コンプライアンス、CSRを重視する意識を高める。

重点施策

1 環境活動

- ①特定事業者として省エネ目標の達成に取り組む。
- ②「省エネ化によるリデュース」「リサイクル率」「グリーン商品購入率」を向上させ、循環型社会へ貢献する。
- ③グループ会社の環境情報を整備し、グループ会社への環境目標の展開を進める。
- ④LED照明、低公害車など、環境負荷低減設備の積極的導入を進める。
- ⑤新拠点への太陽光パネル設置や、大型CNG車導入などで代替エネルギーの活用を進める。
- ⑥グリーン物流の推進として、モーダルシフトをお客様に積極提案する。

2 安全活動

- ①グループ会社の特性に応じた安全・衛生マネジメント体制を確立する。
- ②ビッグデータを活用し、各種安全関連システムの一元化を図る。
- ③事故を未然に防ぐ(アクティブセーフティ)技術を積極的に導入する。
- ④安全技術の継承と学びの機会を創出する。

3 健康活動

- ①グループ全従業員の健康情報を管理し、健康寿命増進につなげる。
- ②健康管理を強化し、健康起因事故を撲滅する。
- ③ストレスチェック実施による予防管理体制を構築する。
- ④健康保険組合との連携による健康増進活動を強化する。

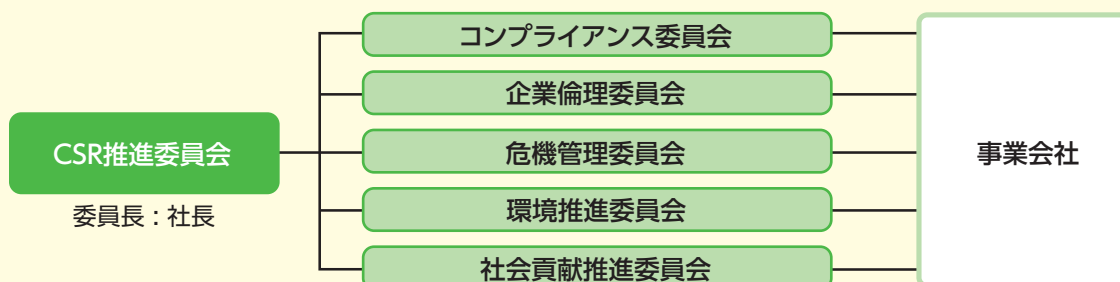
4 社会活動

- ①交通安全教室や地域清掃を積極的に行い、地域社会へ貢献する。
- ②海外での教育支援などのボランティア活動を積極的に行う。

センコーグループのCSR推進体制

さまざまな社会的責任を果たすため「コンプライアンス」「企業倫理」「危機管理」「環境推進」「社会貢献推進」の各委員会がCSRに関する個々の活動を推進しています。

さらにセンコーグループホールディングス(株)の社長を委員長とするCSR推進委員会が各委員会を統括しています。



“生き活き”働ける企業を目指して 健康経営を推進。 「健康経営優良法人」に認定されました

センコーグループでは、長年、従業員の健康管理の充実や「健やか活動」を通じて健康経営を推進しています。こうした取り組みが評価され、2018年2月20日、経済産業省と日本健康会議が共同で優良な健康経営を実践している企業を顕彰する「健康経営優良法人2018」、通称「ホワイト500」に認定されました。



センコーグループホールディングス株式会社
経営戦略室 健康推進部長
宮永 健二 郎
みやなが けんいちろう

安全な輸送には 従業員の「健康」が不可欠です

センコーグループでは、安全な輸送にはドライバーの健康が欠かせないとの考えから、従業員の健康管理・健康増進に全社を挙げて取り組んできました。

2017年、ホールディングス体制となったことを機に、センコーグループの「健康経営」の価値観・方針を共有し、グループを挙げて健康活動を推進するため、「センコーグループ健康経営宣言」を公表しました。

“生き活き”働ける職場を目指し 心身の健康づくりをさらに充実させます

公私ともに健康で充実した時間を過ごしてほしいということがセンコーグループの考え方です。この考え方を基本に、今後も従業員1人ひとりが健康で“生き活き”と働くために、健康増進活動を活発化させるだけでなく、メンタルヘルス対策や職場環境の整備も進め、心身の健康づくりのさらなる充実に取り組んでいきます。

「センコーグループ健康経営宣言」を社内外に発表

2017年9月に公表した「健康経営宣言」には、従業員が健康で楽しく働くことはもちろん、会社生活を終えた後も生涯を通じて元気で幸せな生活を送ってほしいという願いが込められています。

「センコーグループ健康経営宣言」

センコーグループは、従業員の健康について次の通り宣言します。

- ◎「人を育て、人々の生活を支援する企業グループ」であり続けること。
- ◎グループ従業員1人ひとりが健康で生き活きと働くことができること。
- ◎そして、人生いつまでも元気で幸せな生活を送ることが、何よりも重要であること。

この考えのもと、センコーグループは従業員の健康増進に取り組み、「未来潮流を創る企業グループ」として、真に豊かなグローバル社会の実現に貢献します。

センコーグループホールディングス株式会社 代表取締役社長 福田 泰久

健康経営の主な取り組み

01 健やか活動

2007年から続けている「健やか活動」では、厚生労働省による「健康づくりのための身体活動基準」をもとに、各従業員が目標を設定して日常生活の中で運動を習慣化し、健康づくりに努めています。

02 スポーツイベントの開催

年2回、「健やか活動」の強化期間を設定し、各職場で従業員が楽しく身体を動かし、健康増進に取り組んでいます。また、バレーボール大会やウォーキングなど、さまざまなスポーツイベントも実施しています。



03 看護職の配置

全国9エリアの主な事業所に看護職（産業保健師、看護師）を計21名配置し、従業員の定期健康診断の結果や相談に基づいて専門的な健康指導や日常的な心身のサポートを行っています。



長距離・長時間運転を減らす ドッキング輸送の取り組み



ドライバーの高齢化や人材不足が深刻化する中、解決の一手としてセンコーグループではドライバーの負荷を低減し、輸送の効率化を実現するドッキング輸送を推進しています。ドライバーの長時間運転を減らしながら多様な輸送ニーズに応えるため、新たなドッキング輸送ルートの整備も進めています。

大越
昇

センコー株式会社
取締役常務執行役員
埼玉主管支店長
(兼域内配送ネット構築担当)

ドッキング輸送で ドライバーの日帰りが可能になります

長距離輸送はドライバーの長時間勤務を招き、人材不足の一因となってきました。その解決のため、センコーグループでは長距離運行区間の途中に中継地を設け、ドライバーや積荷を交替するドッキング輸送を推進しています。ドライバーは中継地から引き返すことで日帰りが可能になり、ワーク・ライフ・バランスを保ちながらより健康に働くことができます。

また日帰りしたトラックに別のドライバーが乗り替わることで、これまで輸送途中のドライバーの宿泊・休憩に伴って停車していた車両の効率的な運行が可能になり、稼働率も大幅に上がります。



ドッキング作業手順の流れ



①待ち合わせ

ドッキング作業をしやすい位置に2台のトラックを停車させます。



②入れ替え準備

シャーシ(荷台)のアウトリガーを降ろし、電源ケーブルを外したりするなどの準備をします。



③ヘッドの入れ替え

双方のシャーシを交換するためドライバーがヘッドの入れ替えを行います。



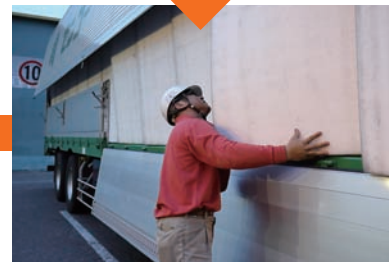
⑥再出発

安全確認と申し送りを行った後、それぞれの目的地に再出発します。



⑤配送伝票など交換

積荷に関する書類を交換するほか、配送物に関する注意事項などを双方申し送りするなど、情報共有を行います。



④積荷確認と車両点検

積載物の確認ができる場合は、積荷を確認。また、車両各所の安全点検を行います。

ドッキング輸送ルートを増やし 多様な輸送ニーズに応えたい

2017年に新たに21ルートを整備し、現在東北から九州間の計78ルートでドッキング輸送を実施しています。ドッキング輸送は、大型トレーラーだけでなく、大型脱着コンテナトラックや10tトラックによる長距離輸送も増えています。

今後5年間でさらに2倍にルートを増やす計画で、多様なドッキング輸送ルートを整備し、荷扱いの難しい商品の輸送など、お客様のニーズに応えていきたいと考えています。



運行ルート例

長距離輸送は、長時間運転だけでなく、目的地までの事前のルート調整や車内での休憩・仮眠、慣れない土地を運転するドライバーの心身への負担が大きいことも課題になっています。ドッキング輸送により、走り慣れた拠点間の輸送を受け持つことで、ドライバーの負担は大きく軽減されます。



構内業務を軽減し、人材不足を解消する 省人化・機械化の取り組み



センコーグループでは、物流センターでの商品の積み替えや仕分け、構内搬送といった重作業の省人化・機械化を進めています。従業員の負担を軽減し、働きやすい職場環境を実現することで、人手不足の解消と生産性の向上を目指しています。

重い荷物を自動で積み替える

アームロボット



アームロボットが飲料や酒類などの商品を自動で搬送専用カートに積み替えます。3ケースを一度に掴めるよう改良されたアームは生産性が2倍になるとともに、従業員の負担を大幅に減らすことができました。

搬送作業を軽減する

無人フォークリフト



全長200m～300mにおよぶ広い構内でのパレット搬送作業に無人フォークリフトを導入しています。パレットの「すくい」「降ろし」「移動搬送」を自動化し、単調な搬送作業の軽減に貢献しています。

物流現場の生産性を高めるには ロボット導入などの自動化が鍵

物流センターでの商品の積み替えや仕分けは、長時間にわたって重い荷物を運ぶ重労働です。そのため人員が集まりにくく、定着率も低いと、慢性的な人手不足に悩まされてきました。センコーグループではこうした課題を解決するため、ロボット技術の導入や機械化を行い、作業の自動化を進めています。

これからも次世代技術を研究し 物流現場の革新に取り組みます

量販店に運ばれる飲料など特に重い商品の積み替えや長時間労働を要する構内搬送作業を中心に省人化・機械化を進めることで、作業負担を軽減しながら人為的なミスを防ぎ、サービス品質や安全性の向上も可能になります。一方、判断を必要とする高度な業務に人員を集中することが、従業員の働く意欲の向上にもつながっています。

2018年、センコーグループの物流経営研究所を中心にロボティクスプロジェクトを立ち上げました。今後は中長期的な視点でグループ横断的にロボット技術をはじめとした次世代技術の研究を行い、物流現場に導入を進める計画です。

センコーグループホールディングス株式会社
経営戦略室長 (兼)ロボティクスプロジェクト長
新田 浩隆
に っ た ひ ろ た か



正確性と効率を高める

音声ピッキングシステム



ヘッドセットとレシーバーを装着

多種多様な商品の仕分けが必要な物流センターに音声ピッキングシステムを導入。音声で作業指示を聞くことで、仕分け作業に集中できるようになり、従来使用していた手元のリスト確認が不要となり、目の疲労やストレスが軽減します。また、両手が使えるため作業効率が高まり、仕分けミスも低減したほか、経験の浅い人の作業習熟にも役立っています。

CO₂削減、ドライバーの負荷軽減に貢献する 食品輸送のモーダルシフト



センコーグループでは、トラック輸送をCO₂排出量とエネルギー消費量を大幅に削減する鉄道輸送に切り替えるモーダルシフトによって、環境負荷の軽減やドライバーの労働時間の短縮に取り組んでいます。特に(株)ランテックは、食品物流に特化した独自ノウハウを多数保有し、“食”の鉄道輸送を実現しています。



株式会社ランテック
上席執行役員
運行管理・車両・設備管理担当
原 弘規

31フィート冷凍冷蔵コンテナを 他社に先駆けて開発してきた(株)ランテック

(株)ランテックでは、食品の品質を保ち、安全に運ぶことのできるGPS動態温度監視システム付き31フィート冷凍冷蔵コンテナを他社に先駆けて独自に開発し、食品の鉄道輸送を実現してきました。少子高齢化で個食や即食が増加する中、冷凍冷蔵食品の消費は増加しており、2021年には31フィート冷凍冷蔵コンテナを現在の160基から200基にまで増やす計画です。

センコーグループの総合力が 食品の鉄道輸送を支えています

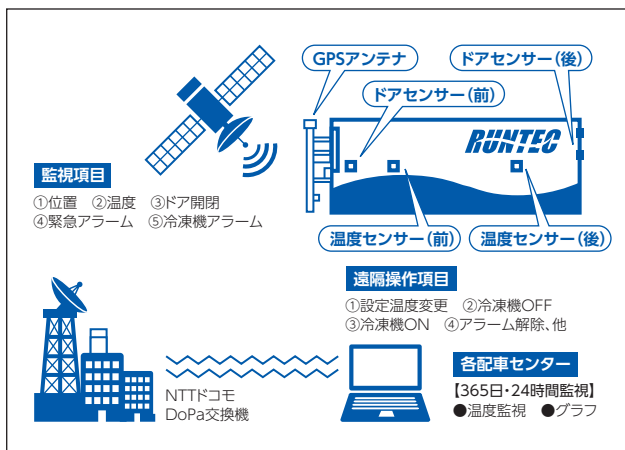
全国に鉄道ネットワークを持つだけではお客様のニーズに応えることはできません。各地に配備した冷凍倉庫、トラックによる配送など、シームレスな物流サービスが食品輸送には不可欠です。センコーグループの総合力を活かし、冷凍冷蔵品輸送のモーダルシフトをさらに推進していくのがこれからの目標です。

輸送中の品質を保つ

GPS動態温度監視システム

コンテナの位置・温度、ドアの開閉、故障の有無などを24時間365日リアルタイムに監視するとともに、温度設定や冷凍機のON・OFF作業を遠隔コントロールしています。同時に鉄道輸送中に故障やトラブルが発生した時、即座に修理などの対応にかけつける体制も整えています。

GPS動態温度監視システムイメージ図



デリケートな食品を傷めない

免震構造の独自コンテナ

食品輸送の大敵は、食品を傷める原因となる振動や衝撃です。そこで断熱性能の高い免震ゴムで床全体を覆い、細かな振動を吸収する免震構造をコンテナに採用。振動を嫌うデリケートな食品の輸送を可能にしています。



全国に広がる

冷凍冷蔵コンテナネットワーク

積載率の高い31フィートの大型冷凍冷蔵コンテナを160基(2018年4月現在)保有。北海道から鹿児島まで全国の鉄道ネットワークを利用し、お客様のご要望に応え、フレキシブルで高効率な輸送を実現しています。



モーダルシフトの効果

- トラック輸送よりCO₂排出量を**69%削減**
- ドライバーの運転時間を**72%低減**

海上輸送、鉄道輸送を組み合わせた「グリーン物流」を積極的に推進

2017年度は、一般社団法人日本物流団体連合会から、第18回物流環境大賞の「物流環境特別賞」を3件受賞。さらに、幹線区間の輸送で鉄道・海運の利用比率が40%超を達成したことが認められ、「モーダルシフト取り組み優良事業者賞」に選定されました。

また、センコーグループは地球環境に優しい海上・鉄道輸送を一定以上利用している物流事業者として「エコシップマーク」と「エコレールマーク」を従来より取得。トラック輸送以外の輸送チャンネルと環境に配慮した物流サービスを提案しています。



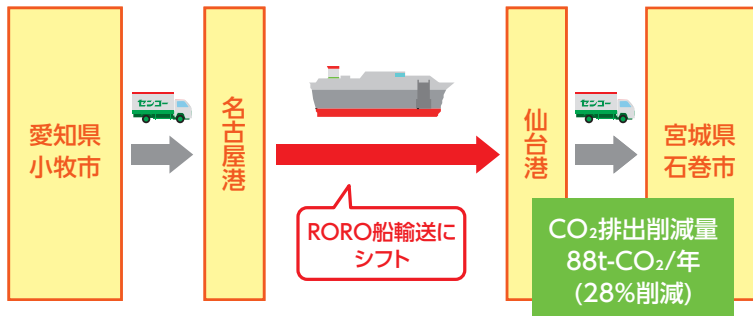
3件の「物流環境特別賞」と「モーダルシフト取り組み優良事業者賞」を受賞しました

【 物流環境特別賞の取り組み 】



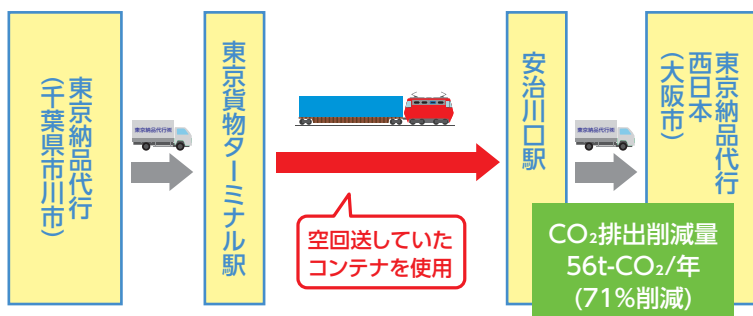
トラックから船に切り替えてドライバーの負荷も軽減

住宅メーカー様の住宅製品輸送を、長距離トラック輸送からRORO船輸送にシフト。CO₂排出を削減するとともに、ドライバーの労働時間削減も実現しました。



衣料品の鉄道輸送で効率化

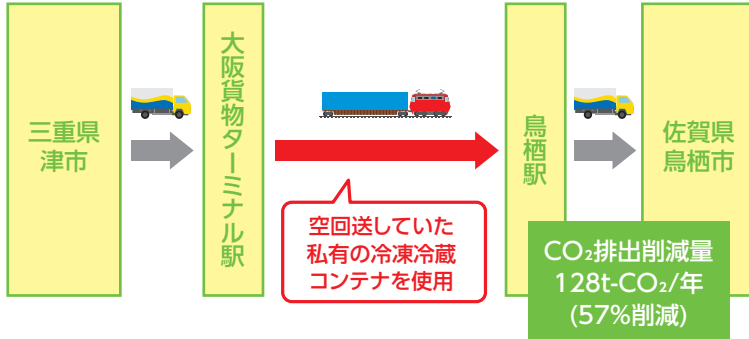
複数のアパレルメーカー様の商品をセンター間輸送するにあたって、トラック輸送から鉄道輸送へ切り替えた東京納品代行(株)の取り組みが評価されました。





私有コンテナだからできる冷凍冷蔵食品の鉄道輸送

(株)ランテックとセンコー(株)による取り組み。冷凍冷蔵食品メーカー様の冷凍トラック輸送から(株)ランテックの冷凍冷蔵コンテナを活用した鉄道輸送へ切り替えました。



冷凍冷蔵倉庫で自然冷媒を活用

冷凍冷蔵品を扱う(株)ランテックでは、地球温暖化防止およびオゾン層への悪影響を抑えるため、環境に優しい省エネ型自然冷媒を使用した冷凍装置を採用し、CO₂削減に取り組んでいます。

また、低温環境下で除湿が行えるデシカント空調機も採用し、荷捌室などの結露を防ぐ改善を行い、お客様からお預かりしている商品の安全・安心な保管を実現しています。



冷凍装置
メガNewTon

名古屋市から「優良エコ事業所」に認定

センコー(株)名古屋主管支店・名古屋営業所と中部業務センターが、2018年1月に名古屋市から、環境に配慮した取り組みを積極的に推進する「環境優良エコ事業所」に認定されました。

屋上緑化、人感センサー付き照明の設置など、環境ISO認証以外の取り組みも評価されました。



CSR VOICE

「CO₂排出量8,310トン以上削減」を目標に、省電力・省燃料・循環型社会形成・グリーン物流に取り組んでいます

いざわ ただお
井澤 公男
センコー株式会社
安全品質環境管理部長
(兼)環境推進グループ長



「温室効果ガス(CO₂)排出量を5年間で8,310トン削減」という環境中期計画(2017~2021年度)の目標を達成するため、省電力では、高効率照明・省エネ空調機器への代替とCO₂排出係数の少ない新電力会社への切替を推進しています。省燃料では、トラックの最新排出ガス規制車や天然ガストラックへの代替による燃料使用量の削減、循環型社会形成では、廃棄物量の削減とリサイクルを推進しています。グリーン物流では、お客様にモーダルシフトと物流効率化を提案しています。これら取り組みで地球環境の保全と維持向上に努めていきます。

センコーグループ環境方針

環境理念

次世代へと継承していくべき地球が、豊かな自然環境に恵まれ続けるために、センコーグループは「環境先進企業」を目指し、すべての事業活動を通じて、自主的かつ積極的に環境負荷低減活動、資源の効率的利用などの環境保全活動を継続的に取り組み、将来への責任、社会からの期待に応えます。

基本方針

- 1 環境に関連する法規制、条例、協定および、社内規則を順守し、「良き企業市民」として主体的、継続的に環境保全活動に努めます。
- 2 経営トップ自らが、「環境目標」を定め、環境活動推進体制の整備、環境管理規程の整備を図り、継続的な環境パフォーマンス向上に努めます。
- 3 物流企業としてお客様の「調達から廃棄」までの効率的な環境負荷低減物流の支援はもとより、商事、情報、その他関連事業などにおいても、商品のライフサイクルの視点に立った環境負荷低減活動に努めます。
- 4 センコーグループの全従業員および、委託する協力会社に対し「環境目標」の周知および、啓発活動に努めます。そして、ステークホルダーに対し、積極的に環境活動情報の開示に努めます。

環境マネジメントシステムの推進

センコーグループは、環境活動の国際規格である「ISO14001認証」、国土交通省所轄の交通エコロジー・モビリティ財団の「グリーン経営認証」を取得。環境マネジメントシステムに基づき、環境負荷を低減する活動に取り組んでいます。

また、センコー(株)取得のISO14001認証では、新規格(2015年版)への移行を完了し、(株)スマイル、ハーコブ(株)でも移行準備を開始しています。



ISO14001

- 認証取得組織
センコー(株)4支店
三協貨物(株)
- 認証番号
JQA-EM1492
- 認証機関
JQA(日本品質保証機構)



ISO14001

- 認証取得組織
(株)スマイル
- 認証番号
YKA0772699
- 認証機関
LRQA(ロイド レジスター クオリティ アシユアランス)



ISO14001

- 認証取得組織
ハーコブ(株)
- 認証番号
EMS542855
- 認証機関
BSIグループジャパン



グリーン経営認証

- 認証取得組織
センコー(株)13事業所、センコー汽船(株)
センコーファッション物流(株)
厚木センコー運輸(株)、安全輸送(株)3事業所
中四国ロジスティクス(株)、栄吉海運(株)
- 認証機関
(公財)交通エコロジー・モビリティ財団

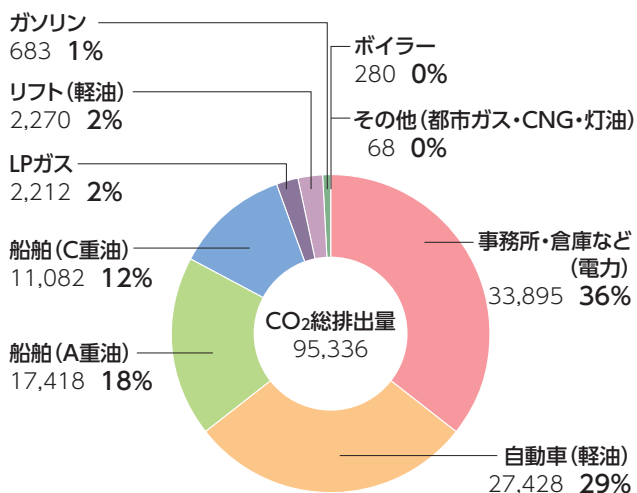
CO₂削減の取り組みと実績

センコー㈱は、事業活動で発生するエネルギー使用量およびCO₂排出量を把握し、その結果を環境活動に反映させています。環境負荷の低減に向けてさまざまな取り組みを継続し、2017年度からスタートした中期経営5カ年計画のCO₂削減目標(5年間で8,310トン以上削減)の達成を目指します。

[2017年度のCO₂排出量エネルギー源別内訳]

INPUT	軽油	11,528 kℓ
	重油	10,231 kℓ
	ガソリン	294 kℓ
	灯油	35 kℓ
	電力	6,620万 kWh
	CNG(天然ガス)	36.6千 m ³
	都市ガス	16.7千 m ³
	LPガス	745 t

[2017年度のCO₂排出量用途別内訳] (単位:t-CO₂)

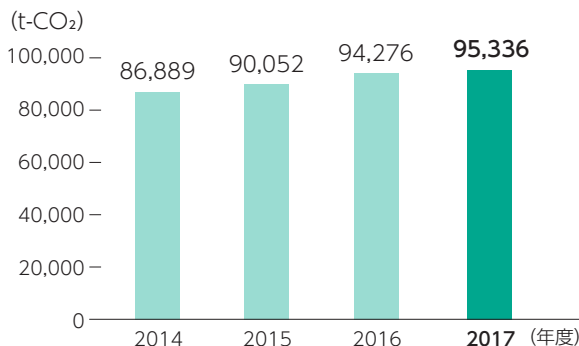


CO₂削減の取り組み

「省電力」目標達成率 **168%**
 「廃棄物削減」目標達成率 **194%**

事業拡大に伴いCO₂排出は増える傾向にありますが、下記の取り組みにより2,257t-CO₂を削減できました

[年間CO₂排出量の推移]



[2017年度のCO₂削減目標と実績]

		継続活動および2017年度の取り組み	2017年度CO ₂ 削減目標	2017年度CO ₂ 削減量	達成率
省エネルギー	省電力物流センター関連	●高圧/低圧部門の新電力会社への切替 ●太陽光発電拡大、自家消費検討 ●省エネ設備(LED照明/空調)切替	980t	1,651t	168%
	燃費向上車両関連	●ポスト「ポスト新長期」車へ代替 ●非石油燃料(天然ガス)車導入 ●省エネ涉外車/環境優良リフト代替 ●アイドリングストップ機器、エコドライブシステム等の活用による省燃費支援	598t	443t	74%
社会循環型	産業廃棄物リサイクル	●リサイクル量/率の向上 ●木パレットのリサイクル業者開拓 ●更生タイヤ活用	84t	163t	194%
省エネ+循環型 合計			1,662t	2,257t	136%
その他	グリーン物流	●モーダルシフト推進支援 ●エコ資材商品への切替 ●共同輸配送支援	3,757t	1,642t	44%

環境負荷低減への取り組み

天然ガストラックを導入

CO₂やNO_x排出が少ない天然ガスを燃料とするCNGトラックを大都市部を中心に導入し、アパレル・医薬・食品輸送に利用。またセンコー(株)三重支店では、JRコンテナ2個積み大型天然ガストラックを導入し、モーダルシフトと排出ガス削減の2つの“地球に優しい”物流を具現化し、お客様にも好評です。



CO₂やNO_x排出が少ない天然ガストラック

大型脱着コンテナトラックを導入

荷台を用途に応じて着脱でき、複数のコンテナを1台で効率よく運べるウィング開閉式の大型脱着コンテナトラックを、センコー(株)小牧支店、センコーエーラインアマノ(株)を皮切りに、全国9拠点に導入。中長距離の幹線輸送車として活用するほか、中間地点でコンテナと積み替える「ドッキング輸送」にも導入予定です。

(ドッキング輸送は、P9～P10の特集記事をご参照下さい。)



荷台となるコンテナと用途に応じて積み替えられる大型脱着コンテナトラック

次世代「Dualバッテリーリフト」を導入

山陽センコー運輸(株)では、リチウムイオンバッテリーと鉛バッテリーを同時に搭載した次世代のフォークリフトを導入。双方のバッテリー特性を引き出すことで長時間稼働と長寿命化を実現。従来のディーゼル・プロパン駆動フォークリフト由来の排出ガス無煙化を実現し、お客様工場内のCO₂削減にも貢献しています。



排出ガスを無煙化、CO₂削減にも寄与

省エネ型照明の導入を加速

物流センターや事務所では、LEDなどの高効率照明の導入と代替を進めています。高効率照明は長寿命のため、照明設備交換の頻度も減り、高所での交換作業による転落事故が減少、安全性も向上しています。



LED照明に入れ替えたセンコー(株)北陸支店 福井PDセンター

拠点の屋上スペースを活用し、太陽光発電を拡大

広大なPDセンターの屋根を活用した太陽光発電事業を2013年度から開始し、再生可能エネルギーの普及促進に貢献しています。

2018年3月末現在、全国18拠点合計の発電出力は13.5MWです。2018年度は2拠点での増設、15.5MWの出力での発電を計画しています。

発電出力 2016年度比 **1.5MW** 増
 全国18拠点で **13.5MW** の出力で
 発電しています

※経済産業省確認ベース



2017年5月 センコー(株)四日市第2PDセンター



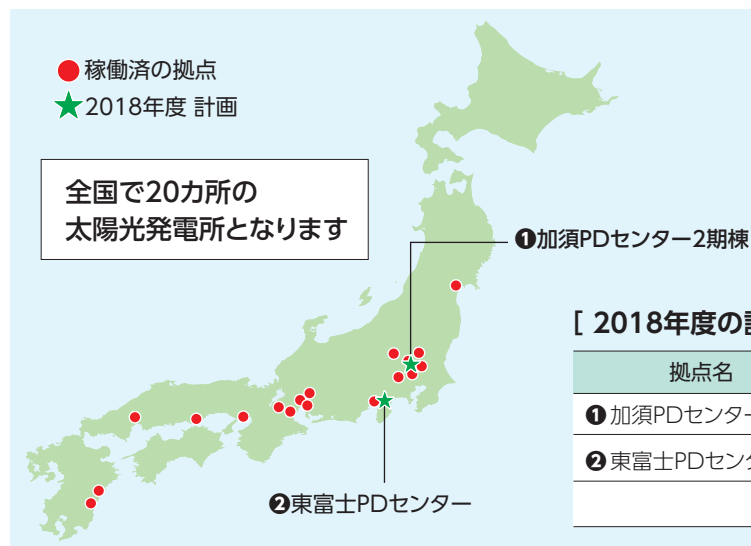
2017年7月 センコー(株)新小牧PDセンター



2018年1月 センコー(株)広島PDセンター



2018年3月 センコー(株)茨城住宅支店社屋



[2018年度の設置計画]

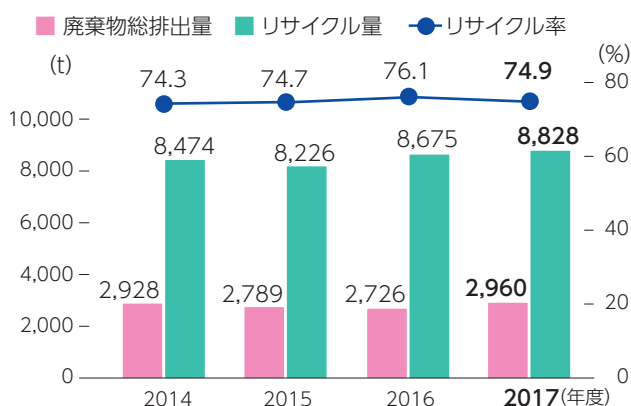
拠点名	稼働時期	所在地	発電能力
①加須PDセンター2期棟	2018年8月	埼玉県加須市	1,500kW
②東富士PDセンター	2018年11月	静岡県富士市	433kW
合計			1,933kW

廃棄物削減とリサイクルの推進

廃棄物の削減とリサイクル推進に継続して取り組んでいます。2017年度は、拠点増加の影響もあり、リサイクルができない廃棄物の総排出量が前年比で8%増加。一方、リサイクル量は1.8%増加し、リサイクル率は前年比1.2%減の74.9%となりました。

引き続き、分別徹底による廃棄物の削減、リサイクル量増加に向けて取り組んでいきます。

[廃棄物総排出量とリサイクル量の推移]



安全を担保する！ 業種・業態に応じた「教育動画」を活用

物流の現場にはさまざまな危険が潜んでいます。しかし、テキストや口頭による指導だけでは、経験の浅いドライバーは実感しにくいという課題が残ります。センコーグループでは、安全を担保するため、教育動画を制作し、各現場がその業務特性に合った動画を自由に選択し、編集再生できる「視覚に訴える」安全教育を展開しています。

経験の浅いドライバーに向けて さまざまな物流業務に潜む「危険」を映像化



交差点左折時の巻き込みに注意



～タイヤチェーン脱着の仕方～



リフト「ながら走行」の禁止



カゴ車の取り扱い(テールゲート上)



ソーター上の作業禁止



安全なカッターナイフの使い方

動画は教育用途に合わせて自由に組み合わせ再生が可能



危険を視覚的に疑似体験 ドライバーの危険感受性を向上

運行・業務開始前のわずかな時間に「危険行動の再認識と再確認」を行い、1人ひとりの意識を高めることで、業務上で起こり得る事故を回避。現場業務に直結するリアルな教育動画は、経験の浅いドライバーの教育に効果を発揮しています。



リアル動画で危険行動を再確認

2017年度は**45本**の動画をリリース 2018年度以降も継続して制作をします

「教育」と「安全」を連携した 教育管理システムの活用推進

経験の浅いドライバー、オペレーターへの教育に力を入れています。

教育管理データベース

- 地区訓練
 - 乗務認定
 - 運転適性診断
 - 身体測定機能
 - 教育履歴
 - 運行管理者研修
 - その他
- ## 事故速報システム
- 事故データ分析

●乗務認定

乗務認定資格があるトレーナーによる認定をクリアした者がドライバーおよびリフトオペレーターとして乗務できます。

2017年度
 ドライバー **279名**
 リフトオペレーター **95名** 認定

●運転適性診断

運転適性診断結果に基づき、1人ひとりのドライバーの安全運転行動を向上させるために効果的な助言・指導を行っています。



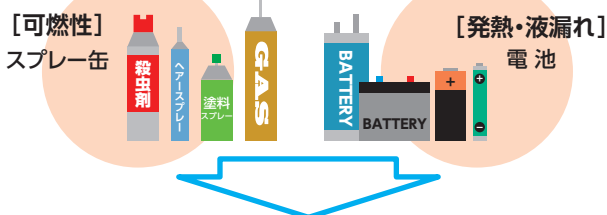
運転適性診断実施中

危険品管理体制を再構築

一般消費者向け商品も指定数量を超えると危険品扱いになります。

センコーグループでは、主管支店エリアごとに、危険品に関する管理責任者を配置して危険品リスクの管理を強化しています。

量販系物流業務における潜在リスク



取扱い量増加(一般品⇒危険品)

安全規定、製品取扱いマニュアルなどに則り、危険品としての適正管理を行っています。

「危険品管理者」を
各主管支店エリアに
1名 配置



センコーグループ安全方針

安全理念

「人間尊重」と「すべてに優先する安全」の精神のもと、『完全^{ゼロ}災害職場の確保』を実現する。

1. あらゆる事故・災害は防止することができ、また防止しなければならない。
2. 管理者は従業員の安全に対する責任を負う。
3. 全従業員が「あらゆる事故をなくするのだ」ということを信条にしなければならない。
4. 安全は高品質と高生産性を確保する。

基本姿勢

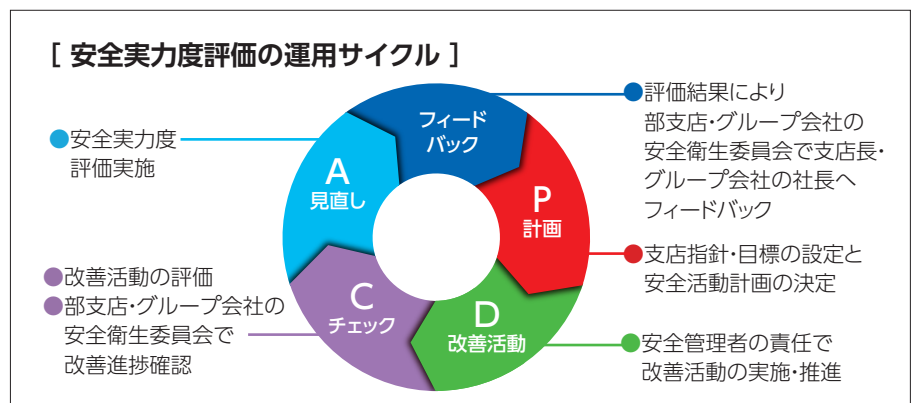
- ◎私たちセンコーグループは、物流事業の社会的使命を深く認識し、事業活動における安全確保が事業の根幹であることを、全従業員が正しく理解し、安全の向上に寄与する取り組みを推進する。
- ◎経営トップは、現場からトップまでが一体となって事業活動における安全の確保と安全性の向上に努めるよう積極的に主導する。
- ◎安全の基本は、健康な心身であることをセンコーグループに働く者1人ひとりが強く意識し、適切な健康管理を実践する。

重点施策

1. 関係法令を遵守し、社会的責任を果たす。
2. リスクアセスメントを徹底し、あらゆる安全リスクを低減する。
3. 健康管理体制の充実と自主健康増進によって「健康障害」を防止する。
4. 安全衛生活動に関する情報について積極的に公表する。

安全マネジメントシステムの推進

法令に則った「安全実力度評価」(内部監査)を毎年実施し、改善進捗状況を改善ランキング表にまとめ、支店長やグループ会社の社長に定期的に配信しています。具体的な結果を地域のマネジメントにつなげることで課題解決のPDCAサイクルを回し、安全を担保しています。



安全目標の達成状況(2017年度)

目標が未達成となったため、新たな対策を策定し推進します。

	2017年度目標	2017年度実績
車両事故度数率	0.35以下	0.49
労働災害度数率	1.45以下	1.60

< 重点対策 >

- 若年者による車両事故・労働災害の削減
- 従業員の高齢化に対応する管理体制の整備強化
- 本質改善に向けた環境整備と効果検証に基づく先進技術の積極的導入
- 各種安全管理システムの連携強化と事故災害の未然防止

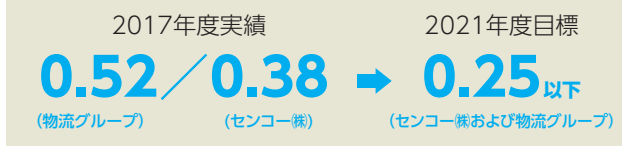
安全中期目標(2017年度～2021年度)

中期経営5カ年計画(SIP21)に基づき、最新の運転支援技術などの活用を含め、グループ全体で安全の取り組みを推進します。

車両事故、労働災害
「2016年度から半減」を目指します



●車両事故度数率(道路上の事故)



●労働災害度数率(休業4日以上の労災)

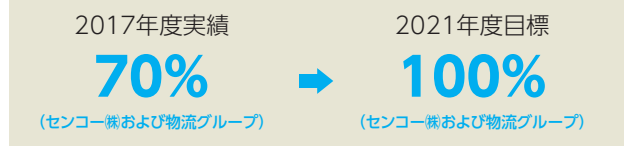


※物流グループには、新たに加わった会社は含みません。

重点施策として、
「先進安全技術設備の導入」を進めます



●ドライブレコーダーの導入



CSR VOICE

事故・労災、品質事故を未然に防ぐ、 安全管理体制を強化しています



いとう たかみ
伊藤 隆巳
センコー株式会社
安全品質環境管理部
安全衛生管理グループ長

私たちセンコーグループは、物流業界の慢性的な人手不足の中、安全・安心で高品質なサービスを提供するためにコンプライアンス遵守と事故・労災、品質事故の未然防止を図るべく、各種安全関連の管理システムの構築とシステム連携の仕組みづくりに取り組んできました。

その仕組みも2017年度に完成し、安全管理強化ツールとして、各部支店、グループ各社で活用、展開を始めたところです。

働き方改革が求められる中、先進技術の導入やドッキング輸送など運行形態の見直し、システムを活用したIT点呼など労働時間の改善にも注力し、人の集える笑顔あふれる職場、企業を目指して取り組みを進めています。

物流グループ会社の安全衛生管理体制

グループ各社が取り組む「安全レベル向上活動」

物流グループ各社で安全訓練や研修会を開催し、事業活動における安全のさらなる向上、お客様の信頼向上のための取り組みを強化しています。

グループ会社の「安全レベル向上活動」



リスクアセスメント研修会
(アクロストランスポート(株))



安全訓練
(株)ランテック



クレフィール湖東でのドライバー訓練
(センコーエーラインアマノ(株))

グループの安全水準の向上とコンプライアンス強化

輸送の安全確保と関連法令遵守を目的に、「改善基準告示」の変更点を中心に、具体例を交えた研修を実施しました。

運行管理者研修



「安全担当者」、「運行管理者」を対象に、定期的な研修会を開催し、情報共有を行っています。

高齢者模擬体験研修



高齢者の行動の衰えなどを実際に経験することで、「事故防止」をより確実なものとしています。

実践型研修



危険品(ローリー)研修(体験型)

「安全性優良事業所」認定の取得推進

(株)ランテック、アクロストランスポート(株)をはじめ物流グループ各社でも、安全性の高い貨物自動車運送事業者である「安全性優良事業所」認定*を取得しています。

*国土交通省および社団法人全日本トラック協会が推進する認定制度



(公社)全日本トラック協会が発行するGマーク

2017年度
センコーグループ全体
97%の事業所が認定



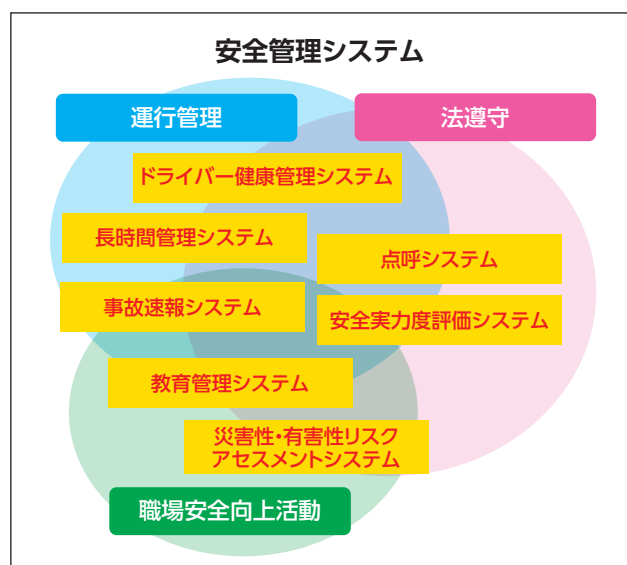
マーク表示車両



安全管理システムの構築から活用

安全、教育、健康管理の各種安全に関するシステムを連携させた「安全管理システム」を2017年度に構築。安全管理に関する全項目、進捗を“見える化”し、安全管理のPDCAサイクルを回しています。

2018年度はこれらのデータを活用し、事故を起こさない、起こさせない運用管理を行い、各事業所・グループ各社への定着を目指します。



2017年度の取り組み

安全情報の各システムを連携管理・分析機能を高度化

安全運行のための貨物運送事業法、職場安全向上活動のための労働安全衛生法、この2つの「法遵守」を目的に、「運行管理」に関わるドライバー健康管理システムや、「職場安全向上」に関わる災害性・有害性リスクアセスメントシステムなど、7つの安全関連システムを連携

安全管理の「見える化」を実現

全情報を集約し、取り組み進捗を見える化させることで、安全管理体制を強化



<2018年度の目標>
安全管理システムの活用推進および定着へ

地区訓練・安全技能向上の取り組み

事故発生率が高い場面を選定した事故防止訓練「地区訓練」を全国で開催。2017年度は、次の2テーマを必須項目として訓練を行い、安全意識と技能の向上に努めています。

自転車との接触事故回避

ドライバー系



リフトと人が係わる事故の回避

オペレーター系



「事故の確実な撲滅」を目的に、事故発生率の高いシチュエーション別に、実践的な技能訓練を各地で開催しました

ダイバーシティ

すべての従業員が快適に働けるよう、 ダイバーシティワークを推進

センコーグループは、従業員1人ひとりが働きがいを感じる環境を醸成することで個々の成長と活躍を促し、企業活力を向上させたいと考えています。すべての従業員が生涯“働きやすい”“働き続けられる”職場環境づくりを推進。ハード面、ソフト面の両面での活動を進め、雇用環境の改善と向上を図っています。

【基本的な考え方】

- 1 男女という枠組みだけをとらえるのではなく、国籍や文化、ハンディキャップなども含めたさまざまな価値観を持つ従業員が、お互いに尊重し合い、より一層活躍できるようにする
- 2 人生において、時々置かれた環境と価値観の変化に応じて、働き方を選択できるようにする



関東センコー運輸(株)群馬営業所

人手不足の中、
「外国人就労支援室」を組織し、
外国人や技能実習生の受け入れを
拡大する取り組みを進めています

CSR VOICE

多様な社会貢献活動に取り組み 地域社会に貢献

たけたに さとし センコー株式会社
竹谷 聡 執行役員 総務部長 社会貢献推進委員会委員長



私たちセンコーグループは、よき企業市民として地域社会との信頼関係を築くために、多様な社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

従業員1人ひとりが取り組む活動としては、清掃活動、献血活動、募金・寄付活動、ボランティア活動などがあり、職場が取り組む活動としては、交通安全教室の開催、障がい者の雇用支援、そして女性が働きやすい環境づくりのための託児所の設置などがあります。私たちは、こうした活動がさらに持続可能な社会と事業の発展に大きく寄与すると考えています。

地域・社会貢献の促進

グループ内の社会貢献活動を評価し、 優れた取り組みを表彰

センコーグループでは、「社会貢献活動表彰」の制度を2016年度に創設。グループ各社から応募された社会貢献活動を「社会貢献推進委員会」が審査し、優れた取り組みを表彰しています。

長年にわたる継続した活動が評価され、2016年度は㈱ランテックが最優秀賞を受賞。2017年5月に表彰式が行われました。



(株)ランテック 本社チーム

「長年にわたる、継続した活動を評価」

子ども交通安全教室、募金活動、学童登校時誘導ほかの取り組みで、㈱ランテックが最優秀賞を受賞しました。



最優秀賞と優秀賞を受賞した各社代表者



子ども交通安全教室の様子

囲碁の普及を通じて 地域・文化活動を支援

2006年からセンコーグループの研修施設「クレフィール湖東」(滋賀県東近江市)で「囲碁フェスティバル」を開催し、2016年から女流囲碁棋戦『扇興杯女流最強戦』に協賛しています。また、2018年3月に開催された「SENKO CUPワールド碁女流最強戦2018」に特別協賛しました。



多能工化(マルチスキル化)の推進

センコーグループは現在さまざまな「働き方改革」を推進していますが、特に力を注いでいるのが、複数の業務ができる人材・能力の育成—「多能工化(マルチスキル化)」です。

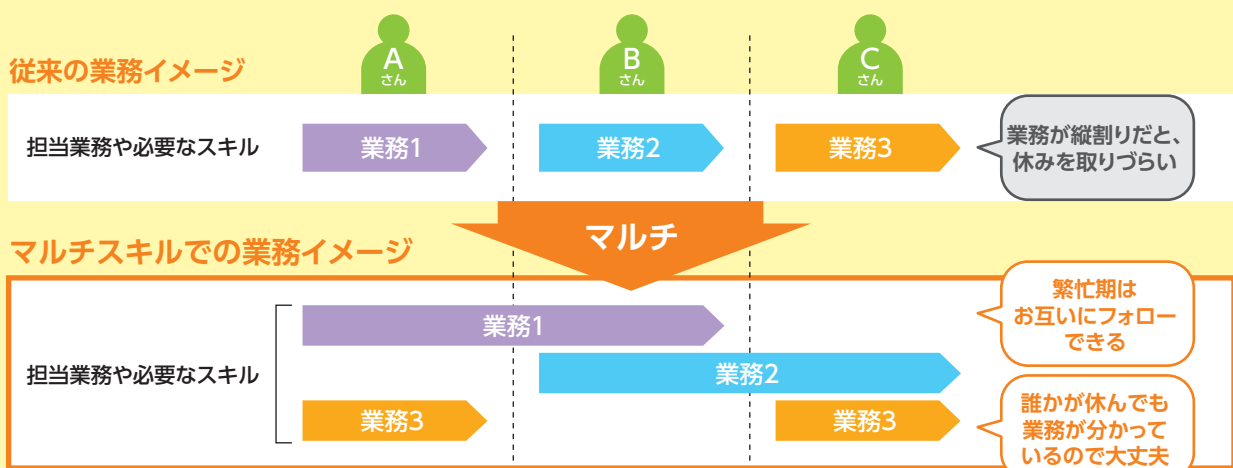
1人のスタッフが特定の業務を担当するのではなく、業務を分担・共有することで、個人への作業負担の集中や長時間労働を抑制。教え、教わることでお互いのスキルアップにつながり、またコミュニケーションが活性化されるなど、多くのメリットが生まれています。

2018年度は、年5日の計画有給休暇を義務化するなど、“働きやすい”“働き続けられる”職場づくりの取り組みをさらに前に進める予定です。

【働き方改革のPOINT】

- ①個人1人に専任化している業務を**多能工化**
- ②事務職だけ、オペレーターだけの仕事とせず**複合的役割実現**
- ③業務共有化による**シフト制・交代制**を実現
- ④**在宅勤務やサテライトオフィス**といった新しい就労形態の取り入れ

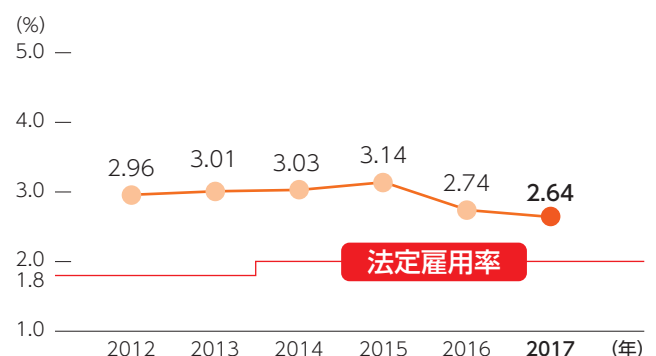
複数の担当者で業務分担し、長時間労働などを抑制。より働きやすい職場に！



障がい者雇用の推進

センコーグループでは、お客様、社員に限らず社会のすべての人々の生活に貢献し、信頼される企業を目指し、(株)センコースクールファーム鳥取(特例子会社)の開設をはじめ、障がい者雇用に力を入れています。法定雇用率以上の高い雇用率を常に維持し、それぞれの現場で働く障がい者の方々は生き活きと業務に取り組んでいます。

【障がい者雇用率の推移(各年6月現在のデータ)】



地域社会との連携

交通安全教室の「出前授業」を各地で実施

「子ども交通安全教室」の開催に加え、小中学校での「出前授業」を2014年度から継続して行っています。

出前授業では、子どもたちが安全な渡り方を考え歩道を横断する、トラックドライバーの目線で死角を体験、左折時の巻き込み事故などの危険性を知るなど、交通安全の大切さを楽しく学びます。

トラックの乗車体験などを通し、トラックを身近に感じてもらうなど、子どもたちに喜ばれ、興味を持っていただけるプログラムとなっています。

北海道、神奈川県、兵庫県、
福岡県、熊本県、宮崎県の
7つの学校で開催しました



センコー(株)開催の
子ども交通安全教室



トラックの死角を体験
(株)ランテック



横断歩道の渡り方
(南九州センコー(株))

海外での社会貢献活動

タイの現地法人では、ダウン症や自閉症などの精神的なハンディキャップを持つ方々が生活をする特別養護施設を訪問。遊具および食材、衣類などの寄付を行いました。



子どもたちと一緒に
ゲームに興じる



食事を持参(提供)し、
会食

清掃活動、献血活動への参加も年々増加

清掃活動は、普段利用する道路への感謝の気持ちを込めて行っている地域貢献活動です。2017年度は、前年を上回る延べ12,647名が参加。献血活動も、前年を上回る1,149名が参加しました。



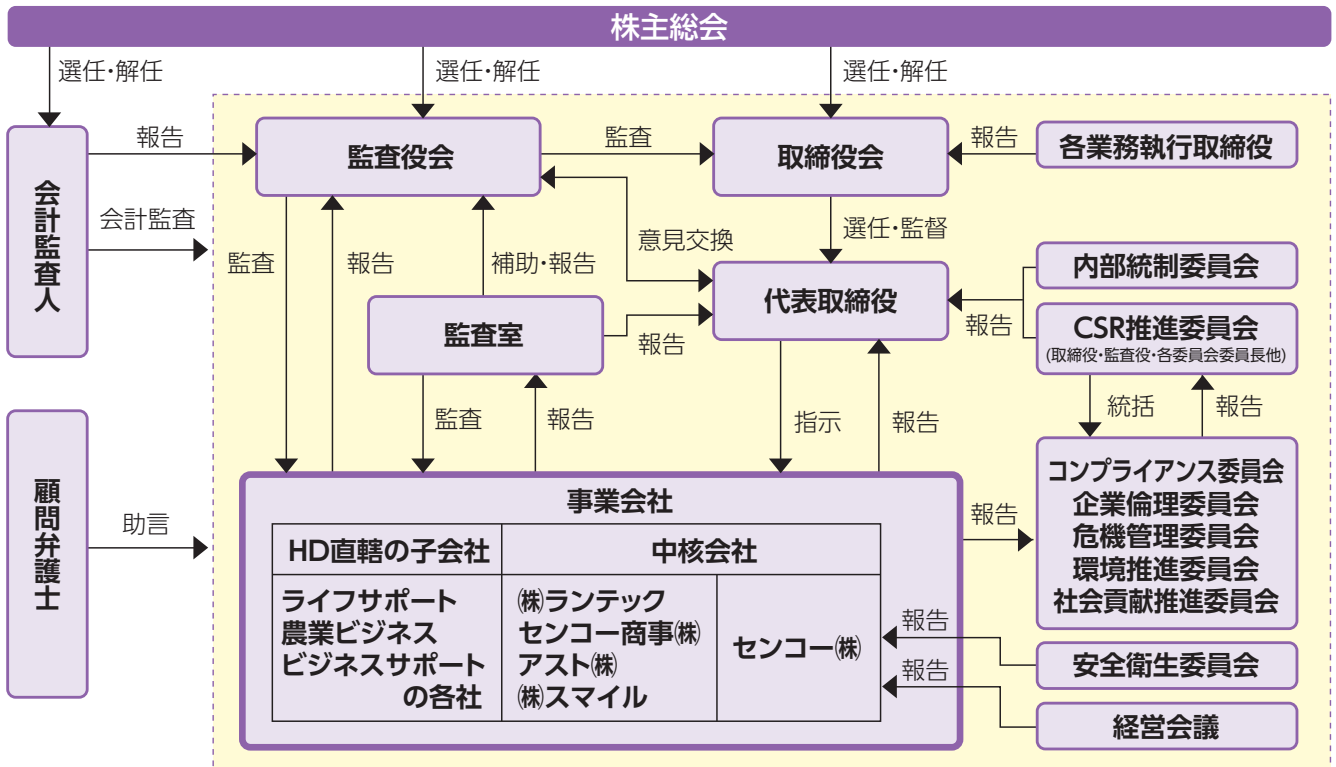
第10回ぐるっと・
びわ湖・クリーンアップ
活動に参加
(京滋地区グループ各社)



センコー(株)
茨城住宅支店と
関東センコー運輸(株)との
合同献血活動

コーポレート・ガバナンスの考え方と体制

センコーグループは、公共性の高い物流事業を行う企業として、コンプライアンス（法令遵守）に徹した事業活動こそが、企業の社会的責任を果たし、信頼を得ることにつながると考えています。そのため、コーポレート・ガバナンスを経営の最重要課題の1つに位置づけ体制の強化に努めています。



コーポレート・ガバナンス・コードへの対応

金融庁と東京証券取引所は、実効的なコーポレート・ガバナンスの実現に資する主要な原則として「コーポレート・ガバナンス・コード」を取りまとめ、2015年6月から適用を始めました。これを受けて、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組む姿勢を明確にするため、コーポレート・ガバナンス・コードのすべての項目をWEBサイトで開示しています。

以下詳細はWEBサイトをご覧ください

- コーポレート・ガバナンスに関する報告書
- コーポレート・ガバナンス・コード各原則への取り組みについて

<http://www.senkogrouphd.co.jp/ir/governance/>

コンプライアンス経営

法令を遵守し倫理にかなった事業活動を行う「コンプライアンス経営」は、企業が社会的責任を果たし、ステークホルダーの皆様から信頼を得るために最も基本的なことです。

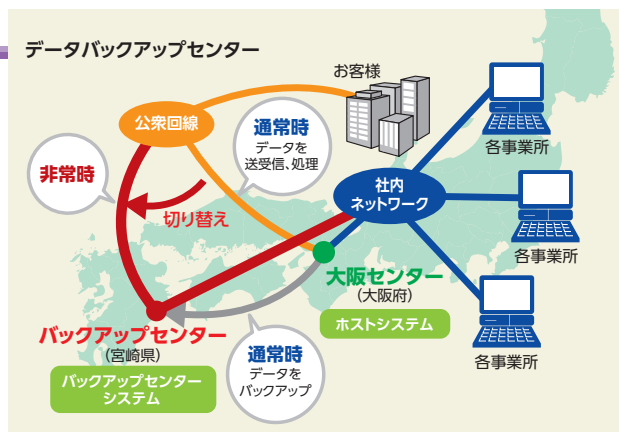
センコーグループでは、すべての役員、従業員が社会的責任を深く理解し、企業活動のあらゆる場面で遵守すべき事項を「センコーグループ企業行動規準」として定めています。

リスク管理体制の強化

事業上起こりうるリスクに万全を期すために、緊急事態には人命優先、物的損害の軽減、業務の早期再開、社会的信用の維持、地域社会への貢献の観点で対応する体制を築いています。

BCP(事業継続計画)の整備

災害時に物流を迅速に復旧させるためのBCP(事業継続計画)を、グループの拠点ごとに構築しています。緊急時にはBCPに基づき本社と現地の対策本部長による指揮で支援活動と復旧活動が迅速に行われます。データセンターが被災した場合に備えた、データバックアップセンターでは災害でサーバーが停止した場合も30分以内にシステムが復旧し、物流体制を維持できるようにしています。



全従業員および家族への「地震対応初期行動カード」配布

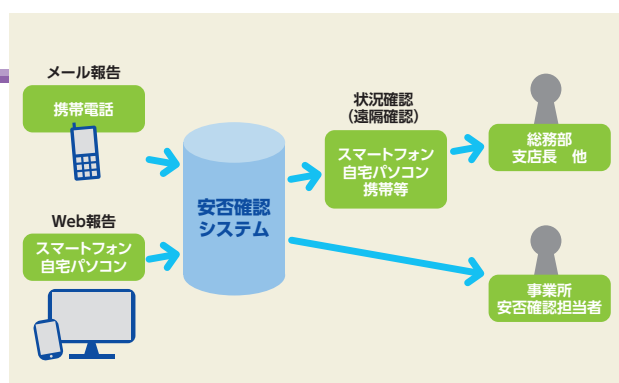
各個人で対応すべき地震発生時の初期行動をまとめた「地震対応初期行動カード」を作成し、グループ全従業員と家族に配布しています。



地震対応初期行動カード(抜粋)

安否確認システムの構築と報告訓練の実施

被災時には従業員がスマートフォンなどで自主的に安否を報告し、従業員の被災状況を迅速に確認できるシステムを自社で開発。年に2回、グループ全従業員を対象に模擬訓練を実施し、実際の被災時における迅速な安否確認に備えています。



安否確認概要図

緊急時備蓄品の配備

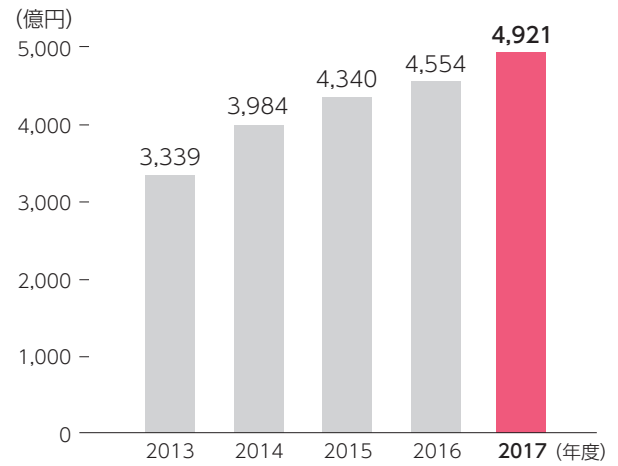
緊急時備蓄品(食糧・水・毛布・カセットボンベなど)も全国5拠点に配備し、被災時には自社配送網により、1日以内で被災地へ輸送できる環境を整えています。賞味期限が近くなった食糧などは生活支援団体などへ寄贈され、社会福祉活動にもつながっています。

会社概要

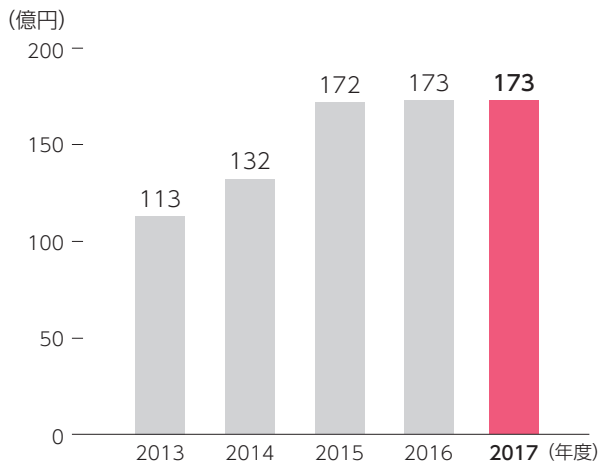
2018年3月31日現在 (グループ合計)

商号	センコーグループホールディングス株式会社 (SENKO Group Holdings Co.,Ltd.)
資本金	265億28百万円
創業	1916(大正5)年9月
設立	1946(昭和21)年7月
本社	〒135-0052 東京都江東区潮見2-8-10 潮見SIFビル
代表者	代表取締役社長 福田 泰久
事業所数	国内 541カ所 海外 57カ所
従業員数	15,876名
車両台数	6,020台(被牽引車両を含む)
支配下船舶数	68隻
物流センター	342万㎡

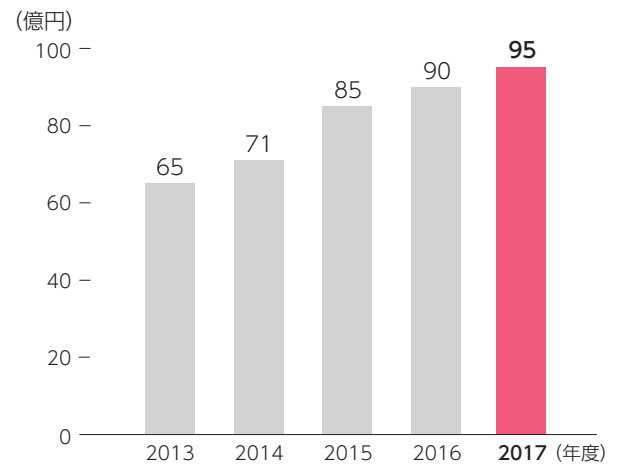
連結売上高



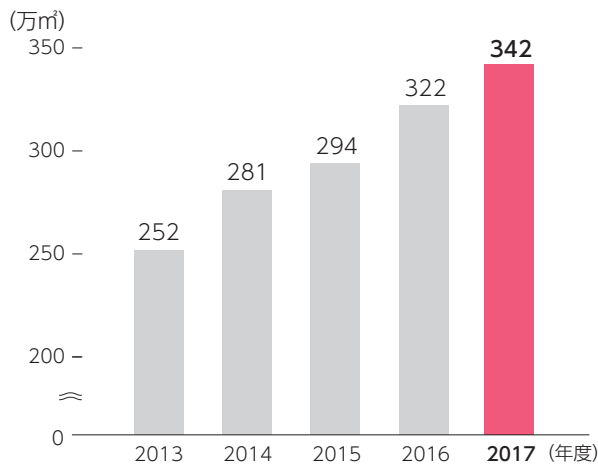
連結経常利益



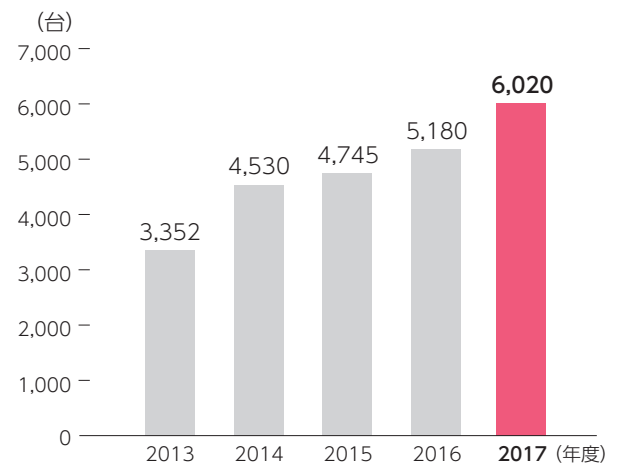
連結当期純利益



物流センター総面積



車両台数(被牽引車両を含む)



国内事業所 (541カ所)

2018年3月31日現在

2017年度に新たに稼働した主な物流センター



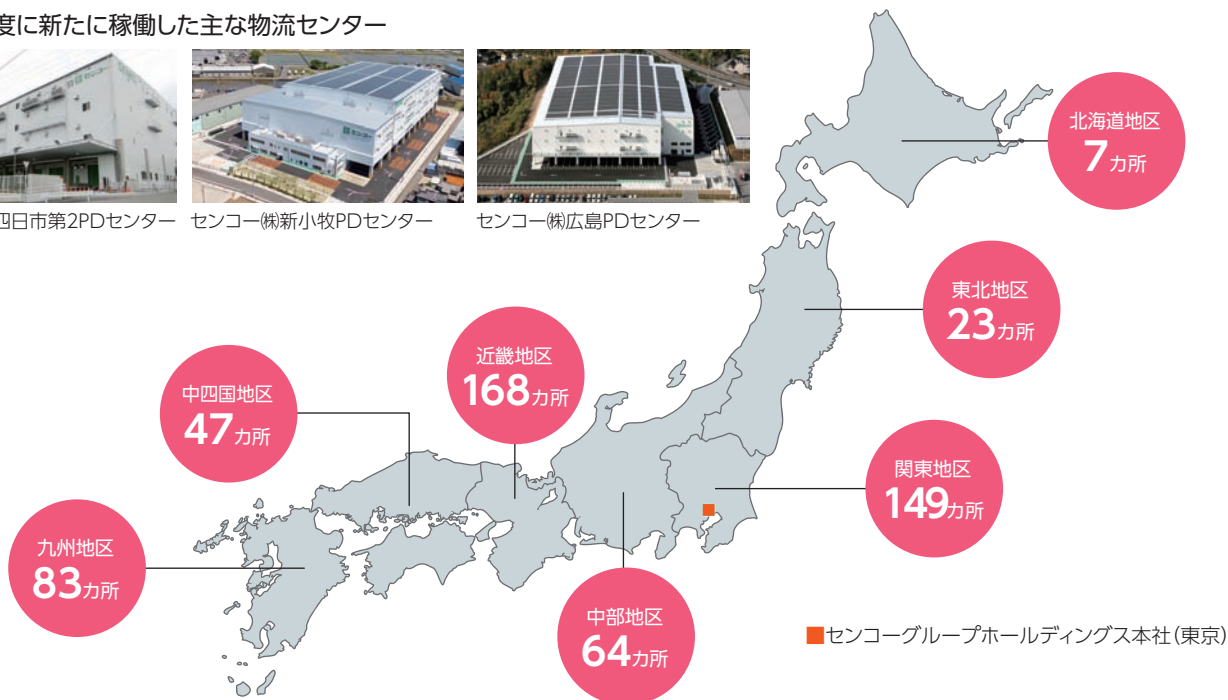
センコー(株)四日市第2PDセンター



センコー(株)新小牧PDセンター



センコー(株)広島PDセンター



海外事業所 (57カ所)

2018年3月31日現在

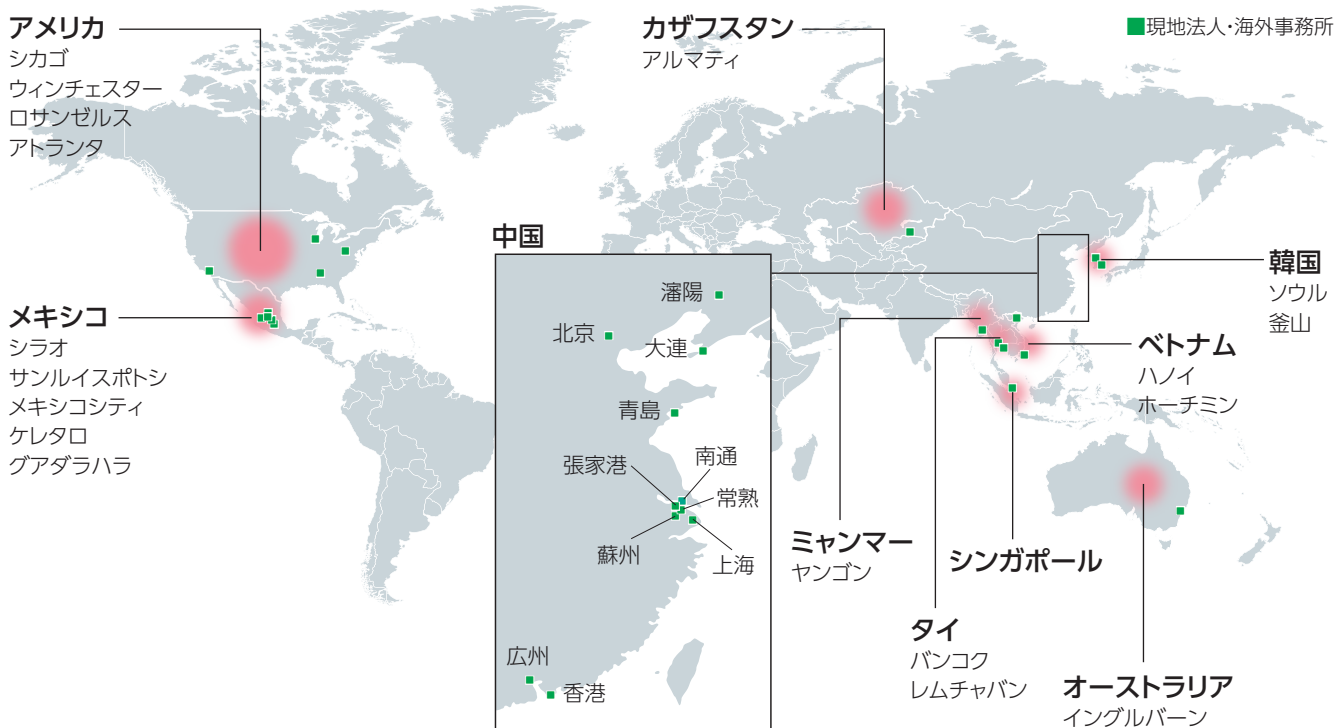
2017年度に新たに稼働した海外拠点



NH-SENKO物流センター(韓国)



フォーノイ・ロジスティクスセンター(ベトナム)



 **センコーグループホールディングス株式会社**

お問い合わせ先

広報室

〒531-6115

大阪市北区大淀中1-1-30-1500 梅田スカイビル タワーウエスト15F

TEL.06-6440-5156 FAX.06-6440-5148

URL <http://www.senkogrouphd.co.jp>



見やすく読み間違えにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

2018年6月発行